

DETECTIVE CONAN  
UNOFFICIAL FANBOOK 04  
SHUICHI AKAI X REI FURUYA

俺は君で  
~~お~~か  
い



FOR  
R18  
ADULT ONLY

URAOMOTE. / YUE

## 【ATTENTION】

- ・組織壊滅、和解後
- ・攻め・受けの自慰描写有
- ・ハロの居ない世界線
- ・頭を空っぽにして  
読むラブコメ
- ・何でも許せる方向け





俺は君で  
抜いている





赤井とは  
組織壊滅後に  
和解した。

直後はどう  
接するべきか  
測りかねたが

FBIと公安が  
正式に手を組み  
組織関係の  
後始末が始まると

仕事仲間  
という関係  
になった。

それから  
自然と  
打ち解け

二人で食事や  
飲みに行ったり  
するほどまで  
なっていた。

僕は  
嬉しかった。

赤井とは  
良い友人に  
なれるかも  
しれない

そう  
思っていた。

～問題の少し前の会話～

ところが  
それは…

何気なく  
振った話題から  
振わぬ方向に

それは…  
どういう事  
ですかね…?

赤井の好きな  
タイプ教えて  
くださいよ！

あ！  
オカズとかでも  
いいですよ  
何かありますか？

オカズ…

ああでも  
聞きたくない  
ようやっぱり  
聞きたいような？

どっち  
なんだ…

だらだら

……そ、





うん…  
そっだよな  
多分…

降谷くん



からかわれ  
たのかも…



冗談…  
だよな…?

……



先日の  
会議の件  
なんだが…

その反応は  
ひどく  
ないか？

うわっっっ  
僕の半径  
ニメートル以内に  
近づくな！！！！

ガタッ

どき

どき

アザ



あ…  
えっと…



さすがに  
傷つくん  
だが

すみません  
つい…  
身の危険を  
感じたので…

じり

じり



赤井ちよっと  
いいですか





は…

俺は君に  
肉欲を伴った  
好意を持つてる  
ということだよ



え…？

君を好き  
だからだ。



君は気付いて  
いないよう  
だったがな。

この気持ちを  
気の迷いや勘違いで  
片付けようとするな  
いでくれ！

俺は本気で  
君に惚れてる



ちょ…っ

好き…？

赤井が  
僕を…？

ちょっと待って  
ください…！！

本気ですか！  
一時の気の迷いや  
勘違いでは…？  
何で急にそんな…

急じゃ  
ないさ



——なあ  
降谷くん

この返事は  
今すぐじゃ  
なくてもいい！

ただし  
俺も速慮なく  
口説かせて  
もらう！

覚悟して  
おくんだな

……



——そんな……

こ

困り  
ます……

だって  
僕は……



僕は赤井と  
友達になりた  
かったのに——！







どうもしないさ。  
俺が寂しい思いを  
するだけで…

だが  
君のおかげで  
そうならず  
済みそうだ

しかし

赤井は  
あくまで  
紳士的だ。

終わったら  
連絡してくれ  
迎えに来る

欲に任せて  
無体なことは  
してこないし

はい…



それ以外は  
以前とあまり  
変わりない  
ように思えた。

restaurant

むしろ  
赤井の振る舞いは  
僕が望んでいた  
『良い友人』のよう  
だった。



告白の返事を  
急いでくる  
こともない。

なんか  
拍子抜け  
するな…  
あんなこと  
言うから  
身構えて  
たのに…



こうして誘われて  
赤井と過ごす  
時間は増えたが



あの  
赤井…

うん？

どうして  
何もしてこない  
んですか…？



千ヲ

正直安心  
しただけ…



赤井は  
このままで  
いいのだろうか…

彼が何を  
考えているのか  
わからない



…何か  
されるのを  
期待して  
いたのか？

ち、違う！  
そんなわけ  
ないだろ…！

ホ…！？  
ならどうして  
そんな事を？

それは…赤井が  
覚悟しておけとか…  
ば、僕で抜いてるって  
言うから…

てつきり  
そういう事が  
したいのかと…



取って  
食…?

安心しろ。  
君の同意なしに  
取って食いや  
しない

えっ

いや、君で  
抜いてるのは  
本当だ

えっ…  
じゃあ  
あれは  
嘘…?

君に意識して  
欲しくて言った  
だけで…

あ…  
あれは…



今はまだ  
口説いてる  
最中だからな…

その気がない相手に  
無理強いするのは  
俺も本意じゃない  
ということだ…



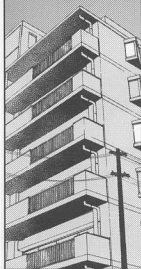
好きな子に  
嫌われたくは  
ないんでね…

……



赤井の  
ばか…

は



君で  
抜いてる

君が好き  
だからだ



何で  
よりによって  
僕を好きに  
なるんだよ…

友達に  
なれると  
思ったのに…



あの  
赤井が…



好きだ

!!



あの  
赤井が

僕で……

降谷くん……



かばっ

いや……

いやいや  
待て……!

何だ今の  
妄想は……!?





溜まってるのか…?

勃ってる…

えええ？  
うそだろ

なんでだ…



そろ…

…



くちゅ…

しゅっ

くちゅ

くちゅ



…

くちゅ

くちゅ

ふ、

あ…ッ

しゅっ

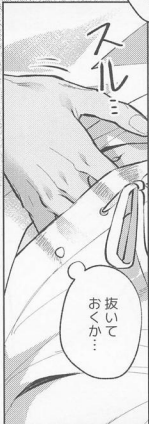
しゅっ



そつ…  
だよな…?

最近抜いて  
なかったし…

ん…っ



スル…

もじゅ…

抜いて  
おるか…



なんで今  
赤井が出て  
くるんだ…

うわ…



くち  
くち  
くち

じゃあ

くち

あッ…



降谷くん



降谷くん…



はあ…

じゃあ

んっ

くち



あ…

ズ  
ズ  
ズ

いつもより  
興奮する

でも  
なんか…

ズ  
ズ  
ズ

賢者タイム

スン…

赤井で抜いて  
しまった…

言い訳  
できないほど  
めちゃくちゃ  
オカズにした…

ツァー…  
ばしゃ  
ばしゃ



そう思って  
いたはずだ…

なのにな…

ぎゅっ



僕は生粋の  
ヘテロで

赤井とは  
友人になりたい

キュッ



いったい  
何をやって  
いるんだ  
!?

ぐわあ  
ぐわあ





大事な用があると言ったら風見君が教えてくれたよ

風見!!

多分よく分かってるよ! 公衆が怒るよ!!



!!

は!!

毎日休憩時間ずらしてるのに!!!

何で!!?

うん? なぜ君の居場所が分かったかって?



何か寒気が...



顔が近い!!

ツ...

ガタッ

あのっ

すみませんが僕そろそろ仕事に戻るの...



最近俺を避けているのはどうしてかな?

ところで降谷君...

!



待ってくれ!!!



何か嫌われるようなことをしたのだろうか

ち、ちが...

ならどうして今更避けるんだ

それは...

うわ 顔が...

は!!



せめて  
納得のいく  
理由を...











——本当に  
赤井のことを  
好きに……

……つて  
ちよつとつと  
待て!!!!!!

ピクッ

今何を  
考えた——!?



……だめだー  
感化されすぎ  
だろ……

早く  
赤井に諦めて  
もらわないと  
おかしくなる……



いっそのこと  
嘘でもいいから  
恋人でも作るか……?

なあ……君  
今彼女か  
好きな人とか  
いるか?

え?  
自分ですか?

今はいない  
ですけど……

なら君に  
頼みがある



僕と  
付き合って  
くれないか?

!?





はっ  
はい……!

風見君

ど、どうして  
ここに……

さっきの  
聞かれてた……

後を付け  
てきた

はっ!?



悪いが  
降谷くんを借りるよ  
彼とは話があつてね

はあっ!?

ちょっと  
何勝手に……

おとなしく  
付いて来た  
方がいい

はあ……

君も部下の前で  
込み入った話を  
されるのは  
困るだろう?



っ……







赤井…？

降谷くん…

頼むからもう  
ああいうのは  
やめてくれ。



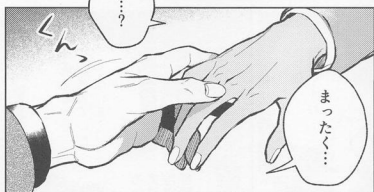
君が俺を  
どう思ってるか  
知らないが…

突然避けられて  
その理由を聞いても  
逃げられた上に  
あんな事をされたら…

俺も平静じゃ  
いられない。

あ…







ふむ…

う…違います…  
これは僕の気持ちの問題で…

赤井が謝る  
必要ない…  
悪いのは僕です…

しかし…  
それが原因で  
君にあんな事を  
させるほど追い詰めて  
しまったな…  
すまなかった…



…それで  
どうか  
降谷くん



なら  
こうしよう…

今回の  
過失の割合は  
50:50



複雑…

俺としては  
そのうっかりを  
望んでるんだが…

というか  
だな…

かば

おこ

あか…

ぎん

何でいつも  
そっぴんだよ  
もっと怒れよ

そんなんじゃ  
うっかり好きに  
なっちゃうたるお





おそらくその理由が  
「訳の分からない感情」  
とやらの正体でもある。  
つまり――

君は俺のことが  
好きなんだよ。



ハア…!?  
そんなわけない  
でしょう…!!  
いきなり何するん  
ですか!

ああ、そうだな。  
君はこんな事を  
簡単に他人に許す  
ようなやつじゃない

おいっ…

じゃあ  
どうして俺には  
許したんだ…?



あ…

そうだー  
拒もうと思えば  
できたはずなのに…  
それどころか  
少しも嫌じゃ  
なかった…



なあ  
降谷くん…



もしこれが  
俺の見間違いなら  
拒むといい…

そうじゃないなら  
それを君の口から  
おしえてくれ…

ちよ、  
ちよつと  
待って、

んっ、

十分  
待った。

あの告白から  
ずっとな…



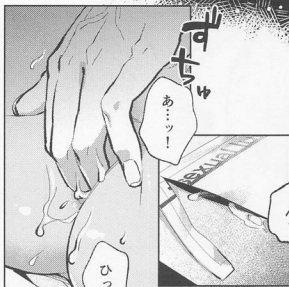
—だから  
そろそろ…

お利口に「待て」を  
していた俺に  
報われる返事を  
くれないか  
降谷くん…

っ…

あ…  
ぼく…

僕は…  
赤井の  
こと—



ず  
た  
や

あ…ッ!

んっ



あっ





うん？  
ここが  
好いのか？

あっあ、  
そこだめ…っ

うあ

あっ



あれ…

どうして  
こうなったん  
だっけ…？

こんなの…  
はじめて、だし…

わ、  
わかんない…



なら俺が初めての  
男というわけか……  
それは良い事を  
聞いた





僕いま…

う…

あ

う…

あう…っ



ずるっ



かわいいな…  
上手にイけて  
えらいぞ

おしりで  
いったー!?

ちゅっ

ちゅっ

わなわな

うっ

うう…

恥ずかしくて  
死ぬ…!



…了解



ずるい…  
僕ばかり  
こんな…くそ

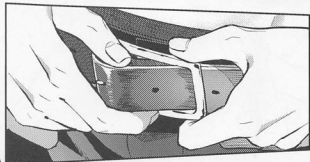
お前も  
服ぐらい  
脱げよ



フー…

これで  
お望み通り  
かな？

ずるん



っ…!

わ…



…優しくして  
やれなくなる

へ…？



あまり  
そんなふう  
に見える  
んじゃない

こら

わっ…!!  
あ…!!

めさ…めさ…



ヒク…  
カチン

あ、





ちゅ

ちゅ

こんなの  
想像と全然  
ちがう……!

大丈夫か……?

う……う……  
大丈夫じゃ  
ない……っ

うん……?  
何が違う  
んだ?



すり

う……  
な……  
につ……

あ……  
あなた……

はま

はっ

はふ



ひとりでした  
ときに……想像  
したのよりも  
おおい……

から……

はっ

あ……っ

……





ああ...ッ

アッ

あっ

あうっ

あんっ♡

それにしても...

自覚が  
なかった癖に  
俺でそんな事を  
したのか...?

あっ♡

あう...っ  
ごめん  
な...っ

んん...っ

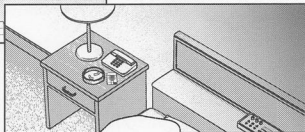
かわいい...

ふ...  
君は意外と  
スケベだな...









.....  
こんなの  
サギだ.....

うん？

じと...



騙された気分です...  
今までの紳士さは  
なんだったんだ...

あなたちょっと  
手出すの早すぎ...

しかたない  
だろう...

すり...

よろ...



悠長にしていたら  
また変な方向に暴走  
しかねんからな

さっさと  
手を出す  
事にした

反論でき  
ない…

ところで  
零くん…

ふ…

う…



いつから俺で  
そんな事を  
していたんだ？



君が最中に  
口走っていた  
事だが…



………それ  
蒸し返すん  
ですか…？



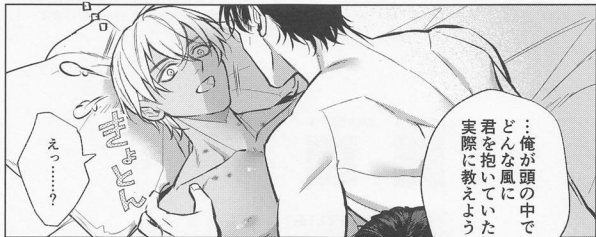
興味津々

そりゃ  
気になる  
だろう。

因みにどんな  
想像をして  
抜いたんだ？

おいっ  
デリカシー!!!!!!

お前とっちらっ  
どっせぞ!!



END

# 俺は君で 抜いている

お待たせしました！  
この本をずっと待っていてくださった方には  
本当にお待たせしてしまってすみませんでした！  
そして手に取ってくださって  
本当にありがとうございます！  
やっと本が出来上がってわたしも嬉しい…  
みなさんに沢山励まされたおかげです。  
そして作業に付き合ってくれた友達たち…  
ありがとうございました。色々相談に乗ってもらって  
大変お世話になりました。

本の内容に関しては特に語る事はないかなと  
思ったんですが、一つだけ言わせてもらおうと  
この零君は最初から無自覚で赤井のことが好きでした。  
赤井はそんな零君に薄々気づいていて、  
それとなくアプローチをしたけど  
気付いてくれないので  
結局冒頭にあんな事を言って零君の出方を  
伺ったわけです。

ここまで読んで下さりありがとうございました！  
感想などいただけますととても励みになります～！

マシュマロ↓ Web拍手↓



※ Web拍手は絵文字を使うと文章が  
消えてしまうそうなので  
使わないようにして頂けると  
助かります！

## 「俺は君で抜いている」

サークル ウラオモテ./ゆえ  
発行日 2022.03.21  
連絡先 hananosuke1222@gmail.com  
pixiv 414506  
Twitter yue\_1s0r  
印刷 サンライズ様

※原作者様・出版社様とは一切関係ありません。  
無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載  
(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)は禁止です。  
ネットオークション、フリマアプリでの転売はご遠慮ください。

PRESENTED BY URAOMOTE. / YUE

俺は君で  
~~知っている~~

